

After COVID-19のIPPは?

日本包装管理士会

会長 山田 孝志

明けましておめでとうございます。

日本包装管理士会会長の山田孝志です。今年のお正月休みは如何お過ごしでしたか? 例年とは違い、不要不急の外出を控え、自宅でゆっくり過ごされた方も多かったのではないかと思います。

昨年の新型コロナウイルスによるパンデミックで、世界的に「巣ごもり」状態が日常化しました。テレワークやWEB会議が普及して、毎日の通勤苦が減ったことは良かったけれども、メンバーとのコミュニケーションがうまくいっているか心配などと新たな苦勞をしている人も多いようです。私の場合は、感染防止のために帰りがけに仲間と居酒屋で一杯飲みながらの情報交換が全くできないことがストレスで、その代わりにかみさん相手の家飲みでお酒の量が以前に比べて少し増えました。

パンデミックの打撃を受けた業界もあれば、巣ごもり需要や「鬼滅の刃」の流行の恩恵を受けた業界もありました。景気の影響を受けない医療業界でも院内感染を恐れて患者が通院を控えるために赤字になった医療機関が多いといわれています。その中で包装業界は、中食市場や間仕切りシートの特需、eコマースの需要拡大などを背景に、食品向け容器や包装資材の需要が増加して、業績に貢献しているように見えますがいかがでしょうか?

さて、今年は令和に入って3年目を迎え、年号表記にも慣れてきました。辛丑(かのと・うし)年は辛いことが多い分だけ、大きな希望が芽生える年になるとも言われています。新型コロナウイルスのワクチンが開発されても国民全員に行き渡るまでにはしばらく時間を要するので、当面は3密を避けて健康にも気を付けて、パンデミックの終息を待つことになるでしょう。そして、今年の景気は良くなってほしいものです。

After COVID-19では、以前と変わった生活習慣や行動形態は元には戻らず、それに伴って消費者の必需品が変わり、購買志向が変わると言われています。日本包装管理士会は、新型コロナウイルス感染の予防から、3密を避けるため、例年行っていた工場見学やセミナー、総会など集まって行う活動を極力控えました。その間にWEB会議システムの比較検討やIPPのニューノーマルを意見交換していました。IPPも従来型の活動方法に拘らず、時代に合わせて新しい方法を模索して進化していきます。そのためには、会員皆様のご理解とご協力がぜひとも必要になりますので、よろしくお願いします。

本年も皆さんと皆さんのご家族のご健康と、皆さんの会社のますますの発展を祈念して、新年のご挨拶と致します。

《INDEX》

日本包装管理士会 会長挨拶	1
日本包装管理士会 選定 2020年包装界・10大ニュース	2
支部だより	3

PACKAGING INFORMATION
包装技術者の連携と協力をめざす日本包装管理士会 会報
No.130ipp
news

ipp news

2021年1月25日発行

編集人/道明 誠

発行/日本包装管理士会

東京都中央区築地4-1-1

TEL 03-3543-9250

日本包装管理士会選定 「2020年包装界・10大ニュース」

1. 新型コロナ禍でWeb方式での実施が急展開

新型コロナ（COVID-19）禍で行動の自粛やイベント中止が続く、包装業界でもWeb方式による研修や会議が急速に普及した。JPIでは主催する包装管理士講座55期を全課程Web方式で実施、IPP関西支部ではミニセミナーをWeb併用で開催するなど、今までは集合しての会議や研修が主流だったが新たな取り組みが加速しつつあり、双方の利点を生かした選択が必要となっている。一方、横の連携を構築する機会が無くなった事やIT対応の遅れなど課題も浮き彫りとなった。

2. 巣ごもり需要で食品容器特需

新型コロナウイルスの影響が、食品の容器・包装にも及んだ。小中高の休校、外出自粛要請などにより、自宅で過ごす人が増加し、食品等を買込む、巣ごもり需要が起これ、スーパーでばら売りされていたパン、総菜等が個包装に変わり、軟包装やプラスチック容器の使用量が増加した。冷凍食品、カップ麺等も売れており、その包材の使用量も増加した。また、デリバリーを使用する注文が増加し、その為に使用する容器・包装の需要も増加した。

3. コロナ禍でよく売れた包装資材

コロナ禍で液体用のキャップ付き袋が、次亜塩素酸水用の容器代わりに猛烈な勢いで売れ始め、多くの外食店でテイクアウトが始まるとスープやカレーなどのテイクアウトに液体用のスタンディングパウチが売れ出した。またオフィスやサービス業の現場の間仕切り用としてポリエチレンのシートや塩ビシートが売れた。レジ袋はリアル店舗では削減が進んでいるが、ネット通販では前年同月比で約3倍も売れている。

4. 段ボールの用途展開進む

災害時に開設される避難所では、コロナウイルス感染防止対策の為に、段ボール製の間仕切りに注目が集まった。組み立てが簡単で、形も自由に変えられ、不要になったら再利用できる。また、会社の事務所、居酒屋等では、簡単に設置可能な段ボール製パーティションが使用された。安価であり、軽い事が特徴である。外枠は段ボールやプラスチック段ボールで作成し、シールド部分はPVCやPETフィルムを使用した。見通しが良く開放感がある。

5. 環境対応で紙製容器の開発が広がる

イギリスの酒造企業は、ウイスキーを紙ベースのボトルで販売することを発表、同じくイギリスのベンチャー企業は、紙ボトルによるワインを販売。またデンマークの大手ビール会社では、紙製ボトルの試作品を公開。日本においてもミネラルウォーターの紙パックが注目を集めた。気候変動対策である「脱炭素化」を狙いとし、食品用や非食品用のパッケージにおいて、バリア性が付与された新たな紙製容器の開発が広がっている。

6. プラ容器の再利用・再資源化の本格的取組み始まる

日本のプラスチックリサイクル率は80%を超えるが、内70%はサーマルリサイクル。日本企業は経済協力開発機構の国際的な基準で評価されるリサイクルに着手し始めた。メーカーと大手コンビニ・自治体・商社・スタートアップ企業などが協力して、使用後の容器を回収し再利用するシステムの構築が始まっている。また、大手企業が共同で、使用済プラスチックの再資源化事業に取り組む共同出資会社を設立する本格的な取り組みも進んでいる。

7. 日本の温室効果ガス削減対応 グリーン社会の実現が加速

9月に就任した菅首相が、日本の温室効果ガスの排出量を実質、2050年にゼロにする旨の所信表明を行った。グリーン社会の実現を加速する革新的イノベーションが求められている。海洋分解性プラスチックの国際規格ISO22766およびISO22403が発行され、大手コンビニS社採用のカフェストロー素材も認証を取得。包装分野ではバイオマス由来のポリエステル樹脂、ナイロン樹脂を使用した包装用フィルムが製品化され、他にも硬質プラスチック成形品（カップ容器やマイクアップ用品容器）が上市された。

8. AI、VRを活用した商品パッケージ開発が活発化

AI（人工知能）技術とアンケート評価を基にパッケージデザイン開発を支援するサービスや、VR（仮想現実）技術を活用し、3D生成モデルと仮想現実商品棚を組合せ、デザイン決定プロセスや消費者調査の高度化・効率化を目的としたシステムが開発された。

菓子メーカーやドリンクメーカーなどでは、デザイン決定プロセスで実際にその活用が始まった。

9. 完全ラベルレスボトルの実現

飲料メーカー各社は、ペットボトル飲料の商品ラベルが無い「ラベルレス商品」を拡充。「資源有効利用促進法」の省令改正(2020年4月1日施行)により、外装単位の販売に限り、リサイクルマークをボトルに刻むことで完全ラベルレスが実現可能となった。これにより廃棄物削減だけでなく、処分の時のラベルを剥がす手間が省けると消費者には好評。またPETボトルリサイクルの高度化にも貢献する。

10. モノマテリアル包材の開発に成功

日本企業が、リサイクル性に配慮しながらも高いバリア性を持つポリプロピレン単一素材パッケージ（モノマテリアル包材）の開発に成功した。そのパッケージはチャックを含めてポリプロピレン90%以上で、アルミ箔を使用しない2層構成だが、内容物の風味を逃がしにくい特長がある。公益社団法人日本包装技術協会が主催する、2020ジャパンパッケージングコンテストにおいて「経済産業省産業技術環境局長賞」を受賞した。

北海道支部だより ●●●

北海道支部長 酒井 幸彦 (36期)

2021年、新年明けましておめでとうございます。

会員の皆様はコロナ禍の新年いかがお過ごしでしょうか。

北海道もコロナの収束がなかなか見えない状況が続いており、非常に厳しい新年を迎えております。春から一進一退を繰り返し冬を迎え一気に増加したようです。各企業、業界等も会合、忘年会、新年会の中止となり、北海道支部も例年JPIと共催している新春懇話会も中止と致しました。そのような中でJPI共催にて11月25日包装懇話会をWeb上で開催致しました。テーマは【美術品に用いられる包装資材の評価に関する現状と課題】【MAフィルムを利用したスイートコーンの鮮度保持輸送技術開発】参加者は41名でした。

北海道はコロナの影響を受けインバウンドが皆無の状況で空港内も閑散となり土産店舗も閉店となり菓子業界、観光業界が大幅な打撃を蒙り、それに連動している包装業界も厳しい状況となっております。又先日は冬の一大イベントの【札幌雪まつり】の中止が発表され各関連業界は落胆し経済に大きな打撃となります。更に近年の異常気象の影響により秋の味覚の【サンマ】が過去最低を記録した前年の72% 27,197トン、【秋鮭】も北海道内で最も漁獲の多い根室地区が前年比59%の4,827トンとなり、それぞれ包装業界にとっては大変厳しい年となりました。一方農業は順調にてジャガイモ、玉葱等は豊作の影響にて生産者にとって価格低迷にて一部廃棄もあり得るとの事です。

日本の食糧自給率38%、北海道は食糧基地として農、水産業が異常気象の影響で収穫、漁獲の減少が続くようであれば日本の食糧自給率の減少は避けられないと思われます。我々包装業界に関わる者としては常に環境に留意しながら営業活動をしていかなければならないと思っています。

2021年は延期となった東京オリンピックの年でもあり、特に北海道は札幌で男女マラソン、競歩等があり、マスクを付けずに応援に行ければと思っております。

最後に会員皆様の益々のご発展、ご多幸をお祈りいたしております。

西日本支部だより ●●●

西日本支部 副支部長 上橋 健一 (29期)

西日本支部は会員間の交流の場として、見学会、研究会、講演会などを主体とした活動を進めています。

今年度はコロナ禍で活動が制限される厳しい状況が続いていますが、JPI西日本支部殿と連携しながら、会員の皆様への企画を検討しています。

◆研究会（オンラインセミナー）

JPI西日本支部、日本MH協会、福岡県倉庫協会、九州包装資材協議会との共催事業で研究会を開催しました。

JPI包装技術研究所 平田様より、容り法完全施行以来20年が経過し、成果と課題を振り返りつつ、今後ますます厳しくなる市町村財政のひっ迫、分別排出への負担感、産業界の経営負担への危惧など、容り法を巡る課題と論点を解説していただきました。

・日 程：2020年10月26日（月）10：00～12：00

・テーマ：容器包装リサイクル法制定から今日に至る流れと課題

・講 師：JPI包装技術研究所 包装材料研究室長 平田 成氏

・参加者：20名

◆第55期 包装管理士合格者

当支部では10名の包装管理士が誕生しました。

今期はコロナ禍により、合格証書授与式、懇親・交流会を中止しました。やむを得ない事情とはいえ、合格者の皆さんは残念に感じたであろうと思います。コロナ感染症の収束後に何らかの形で行事を企画するなど、検討していきます。

◆今後の活動予定

コロナ感染症の影響により、延期・中止することがあります。

研究会（オンラインセミナー）

・日 程：2021年2月2日（火）14：00～15：00

・テーマ：お客様へ製品を大切にお渡しするための活動について（仮題）

Eメールアドレス登録のお願い

活動によっては、会員の皆様にEメールで連絡を差し上げる機会が多くなっております。会員の方には必須事項として、連絡用Eメールアドレスの登録をお願いいたしておりますが、まだ未登録な方がおられます。

下記事務局宛Eメール送信で登録をしていただければ幸いです。

e-mail：ipp@pk9.so-net.ne.jp

東北支部だより ●●●

東北支部支部長 鈴木 雅彦 (23期)

コロナに始まりコロナに終わる一年、管理士会会員皆様におかれましては如何お過ごしだったでしょうか。実は東北支部は、COVID-19問題も有りましたが、JPI 東北支部の運営問題がありました。年明けの新年名刺交換会を無事に開催してから令和2年度の運営について計画を打ち合わせている最中、JPI東北支部運営を委託していた先との契約解除の話が出てきました。IPP東北支部はJPI東北支部と活動を連携し事業を行っていたため、COVID-19とのダブルパンチでした。東北支部会員には全く活動が出来なかった事、この紙面をお借りしてお詫び申し上げます。現在JPI東北支部の運営は本部事務局が担当頂き、現在は来年度の運営等について一緒に相談させて頂いております。もちろん管理士講座についても、東北支部会場での講義がある場合には、出来るだけの協力体制は考えております。今年度は出来ませんでした但合格証書の授与式、管理士論文の発表会は是非開催したい思いです。

東北支部について少しご説明させて頂きます。昭和58年にJPI東北支部が設立され、翌年に管理士会東北支部が設立されました。地域としては東北6県に会員がおられます。活動の中心は東北のへそ仙台で、JPI東北支部と一緒に歩んでまいりました。主な事業は工場見学、セミナー、東北研究発表会、懇親旅行などの活動を行っています。昔にはゴルフ大会なども企画されていたようですが、会員数の減少などで、少し事業は少なくなっています。

運営も理事の皆様には大変ご苦労頂いています。なんと仙台を中心に100km以上の距離から参加を頂いている理事もいらっしゃいました。そんななかやはりIPPの基本、会員のネットワーク作りです。それぞれの専門家が集まり色々な側面から語り合える、そんな仲間づくりの体質。今までの先輩方が築いてくれたおかげです。今年度はCOVID-19の影響で思う活動が出来ませんでした但、次年度はWebも活用し会員皆様に有意義と思える時間を共有できるよう、運営を考えてゆきたいと思えます。是非、我こそは理事と成って運営に携わってみたい方募集しています。もちろんJPI東北支部の運営の下支えも我々の使命と考えていますので、その点も宜しくお願い致します。

外は突然の大雪で一面銀世界の一関から、原稿締切日に慌てて書かせて頂きました。写真は今までの懐かしのアーカイブ写真です。



トヨタ自動車東日本 宮城大衡工場見学会



素敵なお姉さんと一緒に記念撮影 新年名刺交換会



関東支部との交流会も



セミナー風景



管理士授与式と新包装管理士を囲む会

中部支部だより ●●●

中部支部長 岡部 智 (27期)

2020年度は新型コロナウイルス感染拡大の波に翻弄され続けたまま後半に差し掛かっており、IPP中部支部でも総会や会員交流会、賀詞交歓会等のいわゆる「3密」リスクの避けられない事業は、大変遺憾ながら開催見送りの判断を下さざるを得ない状況が続いております。しかしながら、IPP中部支部ではJPI中部支部と連携し、会員各位への情報提供や研修フォローとなる研究例会の開催について、感染予防に最大限の配慮を尽くしながら“Zoomウェビナー”を利用したオンライン形式で実施しております。

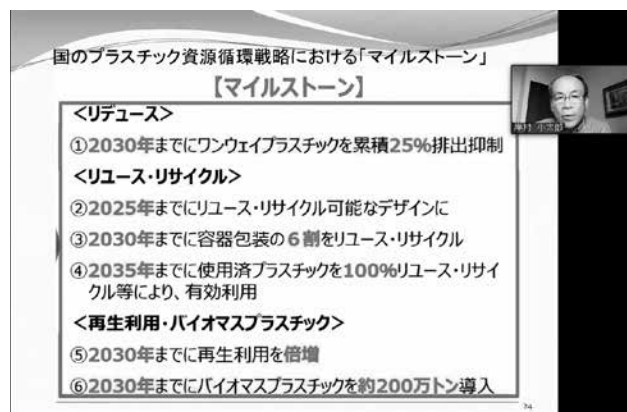
【2020年度包装資材研究例会】

9月24日（木）「包装資材研究例会」では、最初に日本プラスチック工業連盟の元専務理事・岸村小太郎氏から、「海洋プラスチック問題と資源循環戦略ー包装材料への期待」と題して、国内外の海洋プラスチック問題の動向や日本プラスチック工業連盟の取り組み事例を紹介いただいた後、プラスチック資源循環戦略の概要や将来的な展望も踏まえて、今後の包装業界の取り組みへの期待についてお話しいただきました。

続いて、日本製紙(株)の野田貴治氏より、「『紙でできることは紙で。』～紙のもたらす新たな機能と価値～」をテーマに、パッケージを取り巻く国内外の情勢を説明いただくとともに、紙素材の持つ特徴や紙製バリア素材「SHILDPLUS」などの開発事例を紹介いただきました。

3件目には、フタムラ化学(株)の花市岳氏が「植物由来の透明な紙『セルロースフィルム』の環境適性と包装材への応用」の題目で講演を行い、同社が提案する新素材セルロースフィルム「ネイチャーフレックス」

の特徴や使用例を紹介したほか、世界的な環境問題の動向や影響について、独自の視点から解説をいただきました。

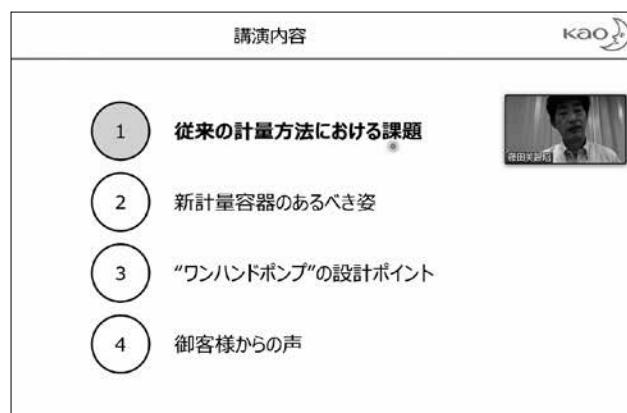


包装資材研究例会

【2020年度包装技術研究例会】

10月14日（水）「包装技術研究例会」では、花王(株)の藤田実智昭氏にJPI東京本部の会議室からご登壇いただき、「衣料用洗剤容器の開発事例」をテーマに、「アタック粉末つめかえ」と「アタックZEROワンハンドプッシュ」の開発事例について、力学的な評価や消費者からの声などを取り入れつつ工夫をこらしていった開発過程を紹介いただきました。

続いて、あいち産業科学技術総合センター・産業技術センターの飯田恭平氏には名古屋駅前のウインクあいち会議室から参加いただき、「減速帯通過時の包装貨物に加わる衝撃について」と題し、輸送用車両が路面の段差を乗り越える際の包装貨物の跳ね上がりについて、衝撃加速度と車両速度、跳ね上がり高さなどの関連を分析した実験の成果をご報告いただきました。



包装技術研究例会

【2020年度包装技術講習会】

11月11日（水）「包装技術講習会」では、1件目に「水性フレキシソ印刷の現状と課題～水性フレキシソ協議会の

P6に続く→

P5から続く→

今後～」と題して、水性フレキシソ促進協議会に属する3社に登壇いただき、最初に佐川印刷(株)の時田直知氏からは、環境に配慮した水性インキの構成比や油性グラビアと比較した際のエネルギー使用量などの分析結果を踏まえて、CO₂排出量削減を中心とした環境面における水性フレキシソ印刷の利点を紹介いただきました。また、セキ(株)の佐々木高夫氏より、2019年5月に設立された水性フレキシソ促進協議会の概要紹介をいただき、続けて(株)金羊社の國崎守男氏から、軟包装における環境配慮包材の動向について、モノマテリアルや生分解性プラスチック、紙化の動きなどを詳細にご説明いただきました。

続く2講目では、(株)トーモクの野尻佳佑氏から「大きく異なる形状の洗面器包装の集約化」と題し、形状の異なる3種の洗面器の統一包装を実現した事例について紹介いただきました。最後に、あいち産業科学技術総合センター・産業技術センターの村松圭介氏が「パルプモールドの積層加工による強度向上」について講演を行い、パルプモールドパレットで強度向上を実現することにより、軽量かつ作業負担の軽減が見込めるという研究成果の発表をいただきました。

【2020日本パッケージングコンテスト入賞作品発表会】

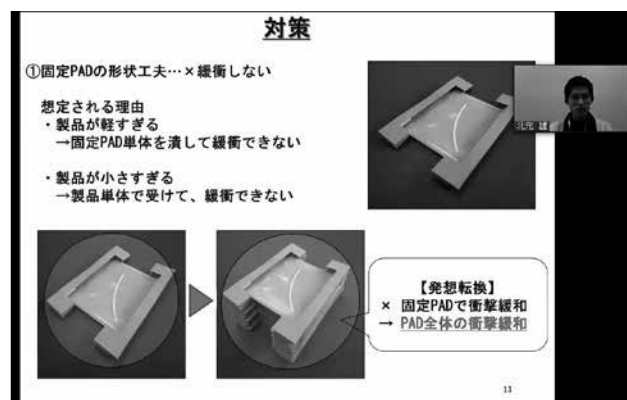
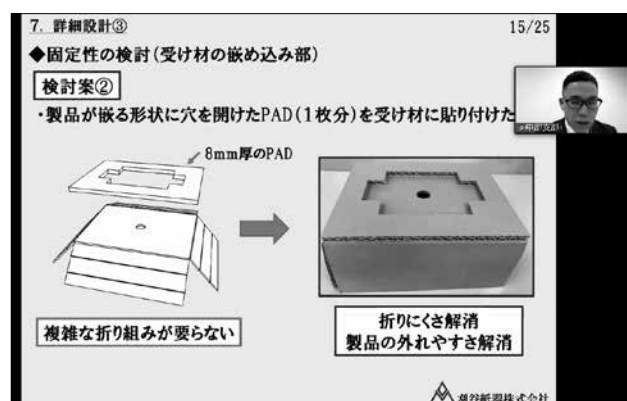
12月2日(水)には、「2020日本パッケージングコンテスト」で入賞を果たした中部地区のJPI会員企業の作品を紹介する「2020日本パッケージングコンテスト入賞作品発表会」を開催いたしました。

今年度は5社6作品の発表が行われ、最初に〈工業包装部門賞〉を受賞した「小型産業用PC【3機種共通化包装】」について、刈谷紙器(株)の神谷貴史氏が発表を行い、オール段ボールでの製品保護と梱包作業性の大幅な向上を実現した包装仕様について解説をいただきました。それに続いて登壇したのは、〈食品包装部門賞〉を「ハンバーガー包装紙フラップラップ」で受賞した陸化学工業(株)の加賀見洋平氏で、環境対応に配慮した同社の取り組みと合わせて、作業者と利用者双方にメリットをもたらす新開発の包装紙の紹介をいただきました。

3講目には、ダイナパック(株)が受賞した2作品の紹介が行われ、〈ロジスティクス賞〉を受賞した「台形箱による輸送効率改善」について神山弘二氏より、〈適正包装賞〉を受賞した「コピー機オプション梱包の包装設計による合理化取り組み」について河村充邦氏より、それぞれ発表が行われ、製品レイアウトと箱形状

の工夫やEPSと段ボールを組み合わせたハイブリッド梱包によって、積載効率の大幅な改善を達成した実例の紹介をいただきました。

後半にはジャパンスター賞に輝いた2作品の発表が行われ、まず4件目には《日本商工会議所会頭賞》を受賞した「1秒ジャンブル什器」について、(株)リンクスの嶋田敦司氏が登壇し、革新的なアイデアで現場の人手不足に対応した店頭販促ツールの開発過程を紹介いただきました。最後に、京セラ(株)の北元雄氏から《公益財団法人日本生産性本部会長賞》を受賞した「多孔質セラミック製品のオール段ボール包装」について解説がなされ、オール段ボール化によって環境性とコストダウンを実現しつつ、緩衝性の大幅な向上も果たした包装仕様の開発過程を紹介いただきました。



2020日本パッケージングコンテスト入賞作品発表会



つつむ君

つつむ君が
ツイッターで
情報発信をしています

ツイッター 日本包装管理士会

検索

2020年は本来なら東京オリンピックが開催されて盛り上がった年になったはずだったのですが、春先より始まったコロナ禍で自制・自粛の1年となってしまいました。

関西支部も支部定時総会をコロナ第1波明けの6月16日に遅れて開催し、今年度の事業を始めましたが、7月17日にW会との合同研究会を開催した後、第2波と第3波の合間を縫って9月28日に見学会&セミナーを、10月26日に第44回ミニセミナーを参加人員を縮小してリモート方式を併用しながら開催しました。

会員の皆様には不自由を掛けていますが、事情を察しご容赦願いたく思います。

◆2019年度／2020年度 関西支部 定時総会

2020年6月16日

於：大阪市立総合生涯学習センター

(大阪駅前第2ビル5F)



「定時総会」

◆第11回W会との合同研究会

7月17日 [W会：女性だけの包装研究会]

「パッケージ設計とパレット積載計算の効率化」

講師：エスコグラフィック(株)

マーケティング部マネージャー

斎藤陽一氏&大山部長

ーオンラインセミナー実施ー

※はじめての試みでした

「もうそこまで来ている、環境に配慮した選択肢～水性フレキシソ～」

講師：相互製版(株)品質管理部課長 北川朋典氏



「斎藤講師 & 大山部長」



「北川講師」

◆見学会&セミナーの開催 9月28日

①見学会 (株)クラウンパッケージ大阪事業所

②セミナー「品質向上に関する取り組みとその成果、改善の取り組み、リスクに対する取り組み」

講師：上嶋執行役員、永田講師、多田講師



「集合写真」



「上嶋執行役員」

◆会員の活躍紹介

会員の活躍を紹介します。当関西支部の運営委員も務めて頂いている長崎美智子さん（株昭和丸筒）が大阪産業創造館で開催された「ものづくりビジネスセミナー」で講演された内容を報告します。

◇テーマ：オリジナル商品「テーブルマスク」の成功ポイントについて



「テーブルマスク」



「会場風景」

◆ミニセミナーの開催

◇第44回 10月26日

「包装とコンプライアンス」

講師：(株)クレステック 顧問／国際法令規格アドバイザー、JTCA副評議委員長
徳田直樹氏

「エコエコパッケージへの取り組み」

講師：(株)クラウンパッケージ広報室長
八木野徹氏



「使用事例：食堂にて」



「八木野講師」



「セミナー風景」



「徳田講師」



「日経広告写真」

◇講演のポイント

- ・社員が自分用に作成した仕切り板を見た社長がこれ売ろう、と決断。
- ・社長の決断後、実働5日での発売開始。この『スピード』こそ、テーブルマスクがヒットした最大ポイント。発売から約半年で約7万枚の売上実績を上げた。
- ・1時間以内のレスポンス対応、中3日のリードタイムなどスピードを生かした販売が功を奏した。
- ・標準サイズ（60×45cm）で2,000円を切る価格は他

商品より安く、「価格」と「対応スピード」で競合との差別化が図れた。

- ・部署間を越えた「全員営業」に取り組み、コロナ禍の中でも従業員の一体感が生まれた。



「長崎さん」

<筆者コメント>

自社製品を活用した社員のアイデアをコロナ禍という時世にうまく対応した製品として商品化され、スピードと全員営業で成果を上げられた好事例と思います。

以上

関東支部だより

IPP写真研究会 活動報告

IPP写真研究会会長 荒牧 哲（23期）

当研究会は写真を通じて楽しさを共有する親睦の集まりです。関東支部からの活動支援金と年会費で運営しています。2020年2月1日（土）、アサヒビール23階のゲストルームで総会、小写真展兼新年会を14名の参加を得て開催しました。その後、新型コロナ流行のため、活動を停止しておりました。

2020年度の初行事として、感染防止に十分配慮し、10月24日（土）に昭和記念公園で撮影会を開催しましたが、参加者は2名にとどまりました。

コロナの状況により開催できるか微妙ですが、2021年2月6日（土）に日比谷図書館の広いセミナールームで総会と講師による作品講評会を予定しています。（残念ながら、感染防止のため新年会はなし）

IPP写真研究会**会員募集

例年の行事は、撮影会が日帰り4回と宿泊1回、講師による勉強会・作品講評会が3回、横浜山手での写真展、新年会などです。

次回の横浜での写真展は16回目となります。例年、会員各自がA3判プリントを3点展示します。講師のアドバイスを受け、A3の作品をつくることにより、年々、写真のレベルが向上していきます。

- ・年会費1000円、写真展出品料負担0円。旅費や懇親会費用は実費負担。
- ・過去の作品提出などの入会審査はありません。参加希望の方はIPP事務局へメールで申し込みください。お待ちしております。

“Wippl” 活動報告

関東支部理事 野崎 浩子 (38期)

再び、新型コロナウイルスの感染者が増えてきていますが、皆様いかがお過ごしでしょうか？

“Wippl” では初めてのオンライン交流会を10月15日に実施し12名の方に参加頂きました。

テーマは「コロナ禍における自粛期間及びその後の働き方について」。

前半は2つのグループに分かれて、簡単な自己紹介後、気軽に楽しくディスカッションを行い、後半は全員同じ会議システムに入り、それぞれのグループのディスカッションの内容を共有しました。

事後アンケートでは皆様から色々な感想、アドバイスなど頂きました。抜粋してご報告させていただきます。

*初めて会う人もいる中でオンラインでも交流会に参加できてよかった。

*他社の働き方や状況などを聞けて自社の働き方の参考になった。

*オンラインのため遠方でも気軽に参加できた。

*次回もあったら参加したい。

また、“Wippl” の今後の活動に関しても色々アドバイスを頂きました。その内容を参考に今後も継続的な活動を続けていきたいと思います。

随時メンバーを募集しておりますので、興味がある方は事務局まで気軽にご連絡頂ければ幸いです。

[連絡先]

事務局：ipp@pk9.so-net.ne.jp (包装管理士会)

Nozaki-H2@mail.dnp.co.jp (野崎)

充実の海外視察について

関東支部長 古平 篤 (25期)

こんにちは、関東支部長の古平です。

関東支部では原則として1年に1回海外視察を行っています。

2020年度計画において、我々は「日本に一番近いヨーロッパ」と言われているロシアのウラジオストクとハバロフスクを訪問し、「食品工場等を視察する」といった実施計画を立てておりました。ご承知の通り新型コロナウイルスの世界的なパンデミックにより、残念ながら本計画は延期となっております。

近年実施した海外視察は、渡航先の包装展見学をメインに企画してきました。過去関東支部では、韓国、台湾、マレーシア、インドネシア、タイ、ベトナム、中国（上海）、オーストラリア（シドニーとメルボルンを別の年に）の展示会を視察しました。また、韓国、タイ、インドネシアにおいては、その国の包装団体と交流会を行いました。特にタイでは、包装展の会場で合同セミナーを行いましたところ、翌年は逆にタイの包装団体の皆さんが東京パック視察のため大勢の方が来日し、包装管理士会のブースにも来てくださいました。その時は日本包装管理士会主催セミナーを東京パックの会場内でも実施し国際交流を深めることができました。

また海外視察においては個々の資質向上だけでなく会員間の交流、親睦についても大切にしております。参加した皆さんと一緒にレストランで食事をしたり、渡航先の街を散策したり観光などを行うことによって交流を深めております。また帰国後の仕事のやる気の充実、そしてメリハリのある生活のためのエネルギー充電にも役立てております。

最近では、ご夫妻で海外視察に参加されるケースが増えてまいりました。家族ぐるみで海外視察旅行を楽しむといった傾向であり、大変リラックスした関東支部の企画となっております。

今回はコロナ禍ですので2020年度の視察報告は残念ながらありませんが、この機会を利用し関東支部が実施している海外視察の楽しさを少しでも体感していただけるように、2019年に企画したオーストラリアメルボルンの海外視察の時（2019年3月26日～3月31日）に撮った写真をご紹介します。ぜひ、リラックスしてご覧いただければと思います。

今後、ワールドワイドでコロナ感染終息を確認した暁には、視察旅行を復活させ支部間交流にもつながる企画を立案できたら、より素晴らしいことだと考え

女性包装管理士コミュニティ“Wippl”ご案内

日本包装管理士会(IPP)より、包装管理士、包装・物流業務に従事される女性で構成されるコミュニティ“Wippl”(ウィップル)のご案内とお誘いをさせていただきます。

●女性コミュニティ“Wippl”(ウィップル)とは
年々包装管理士の称号を授けられる女性の方が増えていますが、まだまだ少ない状況です。そのような中、同じ資格を持つ社内外の女性同士の交流の場が有り、他社での女性の活躍状況や業務にも役立つ情報交換ができれば良いのではとの声が多かったため、包装・物流関係の業務に従事されている女性に裾野を広げた“Wippl”を、2016年11月に、日本包装管理士会(IPP)関東支部の支援するコミュニティとして発足しました。

●“Wippl”の活動
IPPやIPP主催の研修会・研究会、セミナー、展示会等に参加の際の交流、年数回の全体会合の開催等。
コミュニケーションの方法も、直接顔をあわせての勉強会やランチ交流会のほか、情報メールなど、さまざまな方法を取り合わせて活動しています。

【ポイント】

- 参加費無料
(交通費、無休会の人材料などの費用は各個人での負担となります)
- これから包装管理士講座を受講される予定の方もOK!
- 仕事に役立つ情報交換や女性のメンバー同士のコミュニケーションの機会を提供!

**情報交換
勉強会**

ランチ交流会

メンバーからの声

包装管理士会講習会以外にも、知り合いの知り合いに誘われて参加しています。
お誘いを受けた女性が多いので、いろいろな女性との交流の場が広がっています。
他社で働く女性の方と直接顔をあわせての勉強会やランチ交流会は、情報メールなど、さまざまな方法を取り合わせて活動しています。

【連絡先、お問い合わせ先】
日本包装管理士会 事務局
電話03-3543-9250 Fax 03-3543-8970
Eメール: ipp@pk9.so-net.ne.jp
ホームページ: http://www.ippj.net/

ております。

海外視察をされた方からは、「今度、ヨーロッパにも訪問してみたい」といった声もいただいております。ご希望の訪問したい場所がありましたらリクエストもお寄せください。

会員の皆さん！ ぜひ一緒に海外視察旅行に行きましょう。

新たな体験が待っています。

最後になりましたが「早くコロナ終息してくれ～」関東支部長の愚痴です。

大変失礼しました。



ZOOM理事会

関東支部長 古平 篤 (25期)

関東支部ではZOOMを使ったWEB会議 (2020年度) を行いました。まだまだ思考錯誤となっています。
(R2.10.14/ R2.11.12/ R2.12.3)



編集後記

コロナウイルス第3波の中、この編集後記を書いています。本誌が皆様のお手元に届く頃には、感染者数が減少に転じ、明るい話題が巷に溢れていることを心から願っております。それにしても古平支部長が漏らした愚痴にありますように、コロナは早く終息をしてほしいものですね。さて日本包装管理士会では毎年その年に話題となったトピックを包装界10大ニュースとして選定し発表をしてきました。2020年版は本誌にも掲載しましたので、ぜひご一読くださいませ。上位4つはコロナ関連のニュースとなりました。2021年の新たな10大ニュース選定では、会員であるあなたも投稿ができます。事務局からの案内メールやホームページをお見逃しなく。今回のippニュースは蔵出し記事もありましたが、最後までお読みくださりありがとうございました。

道明 誠 (23期)

日本包装管理士会 / Institute of Packaging Professionals, Japan

e-mail: ipp@pk9.so-net.ne.jp
http://www.ippj.net/

■本 部	〒 104-0045	東京都中央区築地 4-1-1 東劇ビル 10F 日本包装技術協会内	☎ : 03-3543-9250 fax : 03-3543-8970
■北海道支部	〒 060-0001	札幌市中央区北一条西 2 丁目 北海道経済センタービル 北海道生産性本部内	☎ : 011-241-8591 fax : 011-241-3898
■東北支部	〒 021-0893	岩手県一関市地主町 3-35 株式会社 東北ウエノ内	☎ : 0191-21-4531 fax : 0191-21-5381
■関東支部	〒 104-0045	東京都中央区築地 4-1-1 東劇ビル 10F 日本包装技術協会内	☎ : 03-3543-9250 fax : 03-3543-8970
■中部支部	〒 450-0003	名古屋市中村区名駅南 4-12-17 日通ビル 2F 日本包装技術協会内	☎ : 052-563-7110 fax : 052-563-7123
■関西支部	〒 550-0014	大阪市西区北堀江 1-1-27 イマイビル 4 階	携帯 : 090-4305-3906 (桃川) fax : 06-6606-8768
■西日本支部	〒 849-0921	佐賀県佐賀市高木瀬西 6-3-2 株式会社 サガシキ内	携帯 : 090-9876-7832

Copy & FAX 用切取線

日本包装管理士会会員登録データ変更届

■宛先 日本包装管理士会事務局 fax : 03-3543-8970 ☎ : 03-3543-9250

フリガナ						
氏 名	会員番号		番	令和	年	月 日届
会 社	社 名					
	所 属					
	住 所 〒					
	TEL	FAX				
	E-mail					
自 宅	住 所 〒					
	TEL	FAX				
	E-mail					